

『原点から再起を期してー』
～生まれ育った町で、地域の身近な問題に取り組む～

◆ご挨拶

私は今年を目標を「再出発の年」として新年を迎えました。政治を志して12年。区長選や都議選では、皆さんに身近な自治体が必要に応じて皆さんに介護や保育サービスなどを柔軟に提供できるようにするために、国や都道府県から身近な自治体へ権限と財源を移管することなどを訴えてきました。しかし、これまで長く続いた仕組みや制度を根本から変える事は決して簡単ではなく、それを託される政治家は有権者から強い信頼を得ている事、経験と実績を兼ね備える事が必要なのだと気付きました。その点で、まだまだ自分自身は未熟で、経験も不足している事を痛切に感じております。

これからは、もう一度原点に戻り、生まれ育った町で、地域の身近な問題に取り組み、具体的に解決の道筋を立て、地域の皆様にとって真に役立つ事が出来るよう、尽力して参る決意です。



私たちが暮らす町の事、一緒に考えてみませんか？

『世代を超えて笑顔が集う町を創ろう!』

～「子どもの遊び場」を考える～

町中の公園で見かける「球技禁止」の看板。区立公園内では、公園を所有する行政によって球技などの行為が禁止されております。これは行政が、公園を利用する第三者にとって危険となり得る行為を予め規制することで、公園内での事故を未然に防いだり、月齢の小さなお子さんでも安心して遊べるようにするために執られている措置だそうです。

他人に迷惑を掛けないように行動する事は、人として守らなければならない数ある大切なルールの中の1つです。しかし私は、これはダメ、あれもダメ、の「危ないことは何でも禁止」の規制社会の中で育つ子どもたちが、やがて自分自身でキチンと物事の善し悪しを分別できるような人間になれるのか、とても疑問に思います。私にも5歳になる息子がおりますが、自分が多少痛い思いをすることで廊下を走らなくなったり、保育園では、お互いが自己主張をたくさんしながら、しだいに相手の気持ちを理解していく事が出来るようになっていたりしています。子どもは、ただ言われた事を理解するよりも、自分が経験をする事でより物事の善し悪しが理解出来たり、考えて行動するようになっていたりするものだと、感じました。むしろ子どもの時にはより多くの失敗を経験できる場所があってもいいのでは、と思ったりもします。

私たちが幼少の頃、放課後には決まって近所の公園で野球をしました。当時から公園内が「球技禁止」と規制されていたかどうかは記憶にありませんが、はっきりと覚えている事は、公園内で遊んでいたのは野球をしていた自分たちだけでなく、女の子も、自分たちより小さな子どもたちも遊んでいたことです。そういう時は打球を飛ばしても良い方向を自分たちで決めて(右打ち禁止、など)野球をしました。自分たちがその場の状況を見て自分たちで“ローカルルール”を決めて遊んでいました。しかし、それでも近所の家の窓ガラスを割って怒られた事もありましたが…。



子どもたちの身の回りから我々大人があらゆる危険を排除する事は重要です。同じように、子どもたち自身にも、どういった行動が自分や他人に危険を及ぼすのか、実際に経験させる場所を用意する事が、我々大人が子どもを育てる環境を考える上でとても重要な視点なのでは、と私は思います。しかし、共働き世帯数が非共働き世帯数を上回る現在、親御さんもなかなか子どもの遊び場に同行できる状況にはありません。そういった中、江東区では「げんきっず」という愛称で親しまれる放課後子ども教室が開かれています。校庭や体育館を放課後に開放し、自由に遊べる場所を子どもたちに提供しています。実施している学校は区内小学校6校とまだまだ決して多くはありませんが、禁止事項の多い公園で遊ぶよりも伸び伸び遊べるとあって子どもたちにも人気なようですし、共働き世帯にとっても重要な施策となっています。しかし、開催場所はあくまで教育委員会が担当する学校施設内に限られ、スペースの面からもすべての子どもを対象とする訳にはなっていないようです。



そこで、元気なお年寄りの方々や地域の方々に、子どもたちの遊び場を見守ってもらってはいかがでしょうか?!町中の公園内で子どもたちが安心して遊べるように、また自分の遊び方が他の子どもに重度な危険を及ぼさないように、地域の方々にしっかりと見張り役をしてもらうのです。時には野球の審判をお願いするもよし、あやとりなど(私は経験がありませんが、、、)昔ながらの遊び方を教えてもらうもよし。教えてもらったお礼に妖怪メダルを見せてあげよう!

私が幼少の頃、いつもどこかに頑固オヤジがいて、私たちのイタズラは殆ど全てお見通しでした。今でも、町会自治会の方々が学校と一緒に試行錯誤を繰り返しながら子どもたちを見守ってくれています。ならば行政も、「タテ割り」と「タテ前」の殻を脱ぎ捨て、町の人たちと一緒に子どもたちの遊び場づくりに真剣に取り組むべきだと思います。子どもたちに、世の中が決して安全な場所ではなく、実はいつも危険にさらされていて、自分で自分や他の人びとの安全を確保していかなければならない事を、キチンと教えて



あげましょう。次の世代を担う子どもたちが、やがて自立し責任ある行動をとれるようになるためにも、大人が前もってあれこれ規制するよりも、子どもが自ら体験して学び考える機会を増やしてあげたい、私はそう思います。子どもたちの行動を「規制」するのではなく、優しく厳しく見守って教えていく、そんな町を創りたいものです。皆さんのご意見、下記事務所までお寄せ下さい。

◆川北直人プロフィール◆

昭和49年江東区白河生まれ。
区立元加賀小、区立深川第六中、東海大付属浦安高、東海大工学部卒。
2003年4月 江東区議選 初当選(3,392票)自由党公認。
2003年9月 民由合併に伴い民主党に入党。
2007年4月 江東区長選 次点(55,437票)無所属。
2011年4月 江東区長選 次点(37,900票)無所属。
2012年7月 民主党を離党し無所属。
2013年3月 日本維新の会へ入党。
2013年6月 東京都議選 次点(20,273票)日本維新の会公認。
2014年6月 日本維新の会解党に伴い無所属。
現在、原点から再起を期して奮闘中!

◆川北直人後援会事務所◆

〒135-0021
東京都江東区白河3-6-2-202

電話 03-5621-6288
FAX 03-5621-6266

E-mail 7010@naoto-k.com
Facebook [facebook.com/naoto.kawakita](https://www.facebook.com/naoto.kawakita)
Twitter [@kawakita7010](https://twitter.com/kawakita7010)